



## 「向きを変えて子どものように」(要旨)

聖書箇所：マタイの福音書18章1~15節

### 【1】一番偉くなりたい

人が集まるところに競争が生まれます。イエスの弟子たちも例外ではありませんでした。「天の御国では、いったいだれが一番偉いのですか」(マタイ18:1)。彼らは旅の途中、会話する暇があれば誰が一番偉いのかと論じ合っていたようです。こうした競争には、弟子たちの母親までもが参戦していました(同20:20~21)。

『誰が一番偉いか』は、当時の弟子たちだけの関心ごとなのでしょうか。「あの人には言われたくない」、「なぜ私がしなければいけないのか」、「こうなったのも、私の助言に従わなかったからだ」等々。私たちは友人であれ家族であれ、相手よりも自分が偉いと思っている時に、そうした思いが自然と頭をよぎります。イエスは「…偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者に…先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。」(同20:26~27)と教えられました。

### 【2】子どもを弟子たちの真ん中に

一番偉くなろうと躍起になる弟子たちの姿は、権力を振るい人々を従わせようとするこの世の支配者と重なります(マタイ20:25)。一方、イエスは真逆の生き方を提示するため、弟子たちの真ん中に一人の子どもを立たせました。これは驚くべきことでした。大人たちに、子どもを見て学ぶようにと言われたからです。

イエスは小さな子どもを通して、以下3つを教えられたのです。

(参考:Joseph A. Grassi, AYBD, 1:906.)

第一、回心の模範。「向きを変えて子どものようにならなければ、決して天の御国に入れません。」(同18:3)

悔い改めとは、神に背いている自らの罪を認め、神に立ち返ることです。

第二、謙遜の模範。「だれでもこの子ど

ものように自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。」(同18:4)

大人は聖書の話や信仰について評論することが好きです。一方小さな子どもはみことばをそのまま聞き、受け入れます。子どものような教えられやすい心、謙遜な心を忘れていませんか。

第三、イエスとの「同一化」。「だれでもこのような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。」(同18:5)

イエスは柔らかい心を持った「小さい者」を決して軽んじてはならないと警告されています(同18:6~10)。

イエスは、誰よりも「小さい者」となられ、私たちに謙遜の模範を残されたのです(ピリピ2:6~8)。

### 【3】向きを変えて子どものように

良いものを得ようと願う者は、人と競い、勝ち取ることが求められるのが世の常です。大人はこうした競争に慣れており、天の御国もその延長線上で理解しようとします。しかし「天の御国」は、人の努力や行いによって勝ち取る性質のものではありません。イエスは私たちに教えられました。心の向きを変えて、子どものようにイエスの語られたことを受け入れることなくして御国に入ることはできないと。そうです。小さな子どもを信仰の模範とするようにチャレンジしているのです！

あなたは、これまでの『誰が一番偉いか』という生き方から自由にされたいと願いませんか。心の向きを変え、子どものようにイエスのことばを受け入れて信じる時、あなたの歩みは新しくされるのです。

「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」(ヤコブ1:21)